

第2回策定委員会での指摘事項等について

指摘内容		対応	反映箇所
市民アンケート調査結果について			
全体	・複数回答の設問で割合を計算する場合は、分母を回答者数(1,377人)とした方が良い。(嶋田委員長)	・回答者数で計算しているため、回答数(N値)を記載する。	—
	・地域や年代毎の回答傾向が分かるように、クロス集計をしてほしい。(小林委員)	・地域別、年代別でクロス集計を実施した、今後地域別構想を検討する際に、提示する。	—
	・まちづくりやコミュニティ活動に関する市民の理解が足りない。(小林委員)	・今後展開する施策にて、まちづくり等への理解・関心度の向上に努める。	—
問2	・どの市町村から、どのくらいの人が移住してきたかが分かると良い。(嶋田委員長)	・本アンケート調査では、移住前の居住地を特定することができない。参考までに人口ビジョンにおける調査結果を提示する。	参考②
都市計画マスタープランについて			
全体	・ハード整備で追加できる情報、特に強みや弱み、課題に関する情報があれば、追加していただきたい。(嶋田委員長)	・都市の現況を追加した上で、課題を再整理する。	参考① 全体
2-24~	・観光について、観光協会が設立されるなど、ソフト面での充実が図られているため、近年の動向等を取り上げてはどうか。(小林委員)	・観光協会HP等を参考に、情報を追加する。	参考① 24~26頁
	・七宝焼が文化資源に挙げられているが、窯元が減少しており、存続するには厳しい状況にある。(山田委員)	・七宝焼に関する現状として整理する。	参考① 25頁
2-30~	・現況整理ではバス利用者のみが示されているが、地域公共交通会議の結果等を活用しながら、課題整理をしてはどうか。(小林委員)	・バスのみではなく、鉄道の利用者数や、公共交通に関する状況を追加する。	参考① 32~34頁
2-35~	・近年の防災的な事業が分かると良い。ソフト面での防災活動もあるため、ハード面以外の内容も取り上げてはどうか。(小林委員)	・自主防災会の活動やその他のソフト的取組についても追加する。	参考① 41頁
2-42~	・課題を整理するにあたり、現行からキーワードを抽出するのであれば、現行計画の評価を行った方が良い。(蔭山委員)	・上位計画や社会情勢等を踏まえた課題整理の流れに再考する。	資料2 4頁
	・現行計画と社会の潮流が1対1の対応となっているが、必ずしもこの通りではないため、再考していただきたい。(嶋田委員長)	・課題から方針設定までの流れを再考する。	
	・暮らしやすさの強みに「公共下水道の整備が市街化区域を中心に進んでいる」とあるが、現状では甚目寺地区は未整備箇所が多く、弱みと捉えることができると思う。課題に追記してはどうか。(嶋田委員長)	・未整備箇所が多いが、順次整備を進めているため、文言を見直す。	資料2 5頁
3-3	・将来人口について、文書とグラフの内容に齟齬が生じているため、見直しをしていただきたい。(蔭山委員)	・表現を再考する。	資料2 8頁

頁	指摘内容	対応	反映箇所
都市計画マスタープランについて（つづき）			
3-3	・将来市街地規模等を加味した上で、将来人口の設定方法を示した資料を次回提出するという認識で良いか。（嶋田委員長）	・次回策定委員会（3/3）にて、住宅用地フレーム、産業用地フレーム（案）を提示する。	資料2 9～10頁 参考③
その他	・甚目寺北 IC 周辺に刈谷ハイウェイオアシスのような施設を整備し、活性化を図ることはできないか。（山田委員）	・今後の施策の中で、内容を検討する。	—
	・新庁舎周辺に多目的なグラウンドや総合的な交流施設を整備するなどして、より魅力的な施設にすることができると良い。（山田委員）		
	・道の駅の整備を行政単独で実施するには、財政不足であると思うため、PFI 等による民間活力導入に手順が検討できると良い。（嶋田委員長）		
緑の基本計画について			
全体	・グリーンインフラの考え方の一つに農地の重要性があるが、今後はどのような活用方法を考えているか。（竹内委員）	・農地は地権者（営農者）意向が重要であるため、行政としては可能な限り保全に努めるとともに、防災・環境保全機能を担うグリーンインフラとして重要な役割を担うことを本計画で記載し、市民等との連携・協働による保全・活用を図る。	資料3 8～9頁
	・緑地現況図等の図面が小さく、細かい要素が判別できないため、図面を大きくしてはどうか。（嶋田委員長）	・資料構成を検討する。	—